

自治大学校での研修

福岡支部 日高 保

1) はじめに

私は平成24年4月9日から約5ヶ月間、東京にある自治大学校で研修生活を送りました。自治大学校は我々土木職員にはほとんど馴染みのない機関なので、そこで学んだことや研修生活について紹介したいと思います。

2) 研修において学んだもの

自治大学校での研修は講義と演習で構成されています。講義の内容は憲法や民法などの法令に関するものから地方自治制度や税財政制度といった制度に関するもの、危機管理やマネジメントといった行政経営に関するものなど多岐にわたっていますが、第一線で活躍する講師陣の講義が受けられるため非常に充実していました。

演習は4・5名で与えられたテーマに関して議論をするといった形で進められる事が多く、実際の事例や法令等の解釈などについて意見を交わします。自治体職員としての経歴もまちまちの研修生同士なので予想外の意見や、自分とは全く異なった視点での議論に発展するといったことがあるため、お互いに良い刺激になります。また、スピーチレッスンなど即興スピーチの練習や実際に研修生に講義をする実習などがあり、実践的な経験も出来ました。

その中でも特に充実していたものとして以下の講義が挙げられます。

① 法令解釈及び制度、争訟について

最近では情報公開制度も浸透し説明責任が問われる状況において、法令や制度などを理解しておく事が必要であり、これらの基礎的な知識と共に解釈の仕方などを学ぶことが出来ます。また、司法制度改革や行政事件訴訟法の改正により住民や事業者が自治体を提訴することのハードルは低くなっており、自治体を相手とした争訟の件数はここ数年で倍近くに増えています。また住民だけでなく、国や他の自治体との間でも権限などをめぐる法的係争が発生することも十分考えられ、職員一人ひとりの自治体訟務能力の向上も求められてきています。そのような中で訴訟や訟務などについて判事や弁護士といった専門家の話を聞けるのもこの研修の特徴です。

その他、社会全体の傾向として制度改革などいろいろな形で地方分権改革に伴う変化に遭遇する機会が多くなっていますが、全体的な繋がりなど

まで理解するには至らない情報が多く存在しています。研修ではこれまでつまみ食いでも積み重ねてきた断片的な知識が体系的に整理され、本質の部分を垣間見ることができると思います。

② 防災に関して

基礎自治体が壊滅的な被害を受け、行政機能が麻痺する事態が発生し未曾有の大災害となった東日本大震災によって、再び災害に対して注目が集まっています。今回、災害大国日本における危機管理に関して土木技術者、地方自治体職員、県民市民などいろいろな視点に立った災害対策について考える機会がありました。特に片田敏孝教授の「釜石の奇跡」の背景にある子供を中心とした防災教育では、災害規模を想定し対策を打っていく土木の思考とは異なり、「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」というキーワードで住民自ら命を守ると説かれた講義は印象的でした。

また、自主研究において災害発生時の行政機能のネットワーク構築について研究しました。今回の災害では被災規模が大ききほど応援要請の情報発信ができず、深刻的な状況に陥っている状況でしたが、従前から自治体間の連携などが構築されているか否かで被災規模にかかわらず支援の状況は大きな差が生じていました。

近年の地方分権社会における各自治体同士が競争を強いられる時代の中で、これまでのように国のインセンティブによって取り組む防災では十分対応できない状況になりつつあります。自治体自ら考え、他の自治体と共存を図っていくという事と同時に弱っている時ほど支援の手が差し延べられるような仕組み作りも急務と言えます。今回の研修では防災を土木行政の分野に限らずいろいろな視点から学べたことが収穫でした。

また、土木をはじめとした公共施設は防災や減災に大きく貢献していることは想像に難くないことですが、想定を超えてしまった時こそ甚大な被害が発生します。そういった災害が起こってしまった場合の危機管理として住民の避難路確保や緊急物資の輸送ルート確保などは被災時の復旧・復興をサポートする上で欠かせないものであり、これまで以上に各機関と連携し戦略的に展開することがより重要になっていると感じました。

3) 集団生活

昼間の研修とは異なり、夕方以降は別の意味で重要な時間となります。難しい課題や試験勉強のため夜遅くまで勉強し討論することも時にはありますが、研修生同士の情報交換や各地から持ち寄られたご当地グルメに舌鼓というのはこういった研修生活の特権ではないでしょうか。また、全国各地から集ったメ

ンバーですから生活習慣や文化が異なることも多いため話が尽きる事はありませんでした。

また、週末になると関東近圏の研修生によるお国自慢と称した観光ツアーが企画されることが伝統となっており、九州からはなかなか足を運ぶ機会がない数々の場所を訪問することが出来ました。なかでも富士登山は天候にも恵まれ、山頂からの眺めも記憶に残るものでした。

その他今年は金環日食やスカイツリーの完成、オリンピックなど思い出深い出来事も数多くありました。

我々の世代になると同じ屋根の下で長期間寝食を共にするといった状況はなかなか生まれませんが、自治大学校では研修生が学校敷地内の寮で生活を送ります。研修生活では楽しい事や苦しいことなど数多くの出来事を経験しますが、苦楽を共にした多くの仲間と固い絆で結ばれたと感じています。

4) 最後に

今回の研修は公務員人生の折り返しの時期をもうじき迎えるといった私たちにとって、今後の歩み方を冷静に見つめ直す上でもまとまった時間はとても有意義なものでした。また、同じような志をもつ全国の仲間に出会えたことは何よりの宝だと感じています。お互いに切磋琢磨しながら過ごした約5ヶ月の研修生活は、私の人生の中で、かけがえのない時間となると同時に自分の力不足も実感しました。今回の研修において家族や職場の仲間など多くの人に協力してもらい、貴重な時間を過ごすことが出来たことを心から感謝し、今後に生かしていきたいと思えます。

自治大学校に限らずこういった経験が出来る事は滅多にないことです。機会があれば是非チャレンジしてほしいと思えます。